

開催報告：第 25 回地質調査総合センターシンポジウム 富士山 5,000 m の科学 — 駿河湾北部の地質と自然を探る —

藤原 治¹⁾・宮地良典²⁾・阪口圭一²⁾・佐藤善輝³⁾

2017年9月21日に、表記のシンポジウムを静岡市の静岡県地震防災センター(第1図)で開催した。東京以外の都市でGSJシンポジウムを開催するのは2006年(神戸市)以来である。本シンポジウムでは地質調査総合センター(GSJ)が2016年度に出版・公表した、海陸シームレス地質情報集「駿河湾北部沿岸域」、特殊地質図「富士火山地質図第2版」、水文環境図「富士山」を基に、その調査研究の過程で分かったことや、あるいは新たな課題として浮上した問題について7件の口頭発表と、関連する研究も含めて合計6件のポスター発表を行った(第2図、第3図)。来場者は一般来場者が約70名、GSJ関係者が約20名であった。なお、本シンポジウムはGSJ創設135周年記念事業の一環である。

静岡市で開催した第一の理由は、GSJの研究を東京以外の都市でも知ってもらうことである。研究テーマと最も関係が深い地域で、直接市民の皆さんとお話をさせていただくことで、より効果的な成果普及を目指した。また、地質の研究成果を社会へ「橋渡し」することも大きな目的である。活断層や火山、あるいは地下水の研究など、GSJの

主要ミッションの一つである知的基盤整備に関する成果は、基礎的な情報であるが故にどのような形で「橋渡し」をすれば企業や国民にとって役に立つのかが難しい。今回は、市民とのインターフェースとなる自治体の生涯学習や防災関係の部署だけでなく、地震、火山の防災情報、あるいは地域の自然利用と関連が深いと思われる地元企業へも広報を行い、これらの方々にも来場いただくことができた。

本シンポジウムでは、地域の地質について身近にあるのに実は知らないこと、分かっていないことを紹介し、生活や企業活動の中で役立ててもらうことを趣旨とした。誰もが知っている富士山を中心に据えて、その周辺の地形や地質構造の成り立ち、あるいは地下水について紹介したのはそのためである。例えば、富士山はその美しい外見を誰もが知っているが、地質学的にはどういう背景があって、火山としてはどう特徴があるかなどは知らない人が多いと思われる。また、防災先進県である静岡県民であれば、駿河トラフがプレート境界であることは知っている、それが内陸へどうつながっているのかまでは詳しく知らないであろう。そこで、この地域の複雑な地形と地質構造について、



第1図 会場の静岡県地震防災センター。



第2図 講演の様子。

1) 産総研 地質調査総合センター地質情報基盤センター
2) 産総研 地質調査総合センター研究戦略部
3) 産総研 地質調査総合センター地質情報研究部門

キーワード：GSJシンポジウム、富士山、駿河湾、静岡、開催報告



第3図 ポスター展示の様子。

富士川河口断層帯などの活動と合わせて紹介し、「生きている地球」が身近な風景などを作り出していること、一方で時には災害をもたらすリスクとなることを解説した。また、富士山周辺は製紙業など地下水利用が重要な地域である。この地域になぜ地下水が豊富なのかなども紹介し、来場者には好評であった。

さて、本シンポジウムの副題にある「5,000 m」に疑問を持つ読者がいるかもしれない。実際には駿河湾の最深部と富士山頂の標高差は6,000 m以上になる（それを知っているあなた、地質の情報を良く知っていますね）。今回の講演で紹介する調査研究の対象は駿河湾の北部から富士山まで、標高差5,000 mの範囲に分布する地形や地質なので、あえてこのようなタイトルにしている。

口頭発表では以下の講演があり、かなり専門的な内容も含まれていたが、聴講者は熱心に聞き入っていた。

1. 海陸シームレス地質情報集「駿河湾北部沿岸域」の成果と急務の課題（尾崎正紀：地質情報研究部門）
2. 「想像力の欠如」に陥らない防災を（岩田孝仁：静岡大学 防災総合センター長）
3. 静岡県富士川河口域における二次元反射法地震探査（横田俊之：地圏資源環境研究部門）
4. 駿河湾海底下に眠る沿岸部の地形変動史、活断層（佐藤智之：地質情報研究部門）
5. 陸上に延びる駿河湾の地質構造—富士川河口断層帯周辺の地形と地質—（山崎晴雄：首都大学東京名誉教授）
6. 富士火山地質図から見た噴火の特性（石塚吉浩：活断層・火山研究部門）
7. 富士山の地下水を探る（小野昌彦・井川怜欧・町田功・丸井敦尚：地圏資源環境研究部門）

受付脇では、床貼りで「富士火山地質図第2版」（1/5万の原図を200%拡大）と、海陸シームレス地質情報集「駿河湾北部沿岸域」のうち「富士川河口断層帯及び周辺地域地質編纂図（1/5万の原図を300%拡大）」を展示した。これには来場者の関心が高く、地震防災に興味はあるが、このような展示は初めてとの声もあった。ただ、凡例などが複雑で駿河湾北部の複雑な地質を一般の方に直感的に理解してもらうには、さらに工夫が必要に思われた。富士山の地質や地下水流動などについて、2種類の3Dプロジェクトマッピングを展示したが、これも来場者に非常に好評であった。また、地元メディアからの取材もあり、この地域への社会的関心の高さも改めて感じられた。

総合討論では多種・多様な地質の調査研究成果を社会に生かしていくために、どういう情報をどういう形で発信してほしいか、またどうしたら使いやすい（使いたい）と思うかをテーマに会場から意見を募った。例えば、地図情報と一体化したものが使いやすいといった意見があったが（地方行政職）、おそらく地質図Naviをご存じなかったものと思われる。これはGSJの広報活動としては課題である。また、シンポジウム自体はオープンな発表会で以前に比べGSJの顔がわかりやすくなってとても良い（地質関係者）、などの意見があった。

来場者の興味（アンケート結果）としては、地震や火山の防災について地質の知識を得ることが最も多く、静岡県・富士山・駿河湾の地質と自然の理解がこれに次いだ。また、地下水と生態系との関係などについての知識を求めた方もあった。

平日にもかかわらず、地元自治体や企業を含む多くの来場者があり、所期の目標を達成できたと考えている。せっかく盛り上がった機運を生かしていくよう、今後もフォローが必要と感じた。

なお、本シンポジウム開催に当たっては、静岡県地震防災センター、産技連知的基盤部会地質地盤情報分科会のご協力をいただいた。

FUJIWARA Osamu, MIYACHI Yoshinori, SAKAGUCHI Keiichi and SATO Yoshiki (2017) Practice Report of the 25th GSJ Symposium "Science of Mt. Fuji area ranging 5,000 m in elevation - Researches on the nature of northern Suruga Bay region-".

（受付：2017年10月4日）